

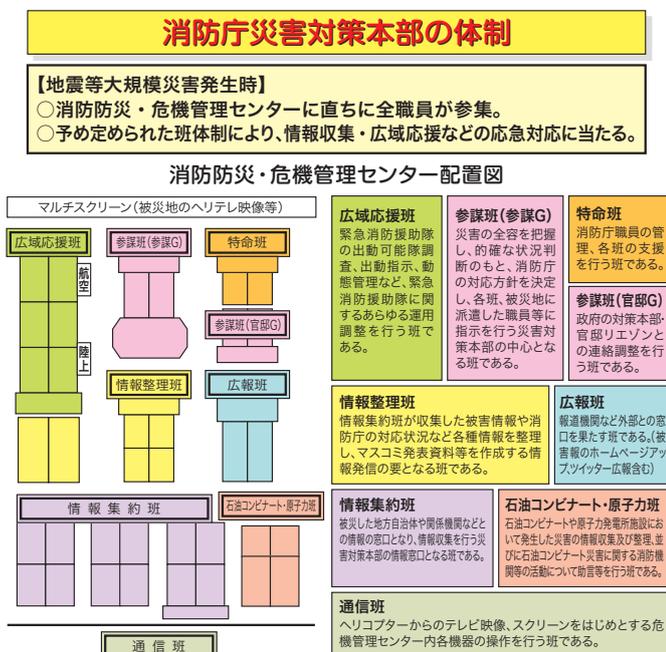
首都直下地震を想定した 消防庁図上訓練の実施 概要

応急対策室

去る8月10日、消防庁長官以下、本庁全職員を対象とした「消防庁図上訓練」を消防防災・危機管理センターにおいて実施しました。

消防庁では、大規模地震等発生時には、消防庁長官を本部長とする消防庁災害対策本部を設置し、消防庁全職員によるFシフト（Full Shift）体制（[図1]参照）により本部運営を行っています。

[図1]



Fシフト体制では、職員は原則として、あらかじめ決められた班で活動を行い、参謀班を中心として災害の全容を把握し、的確な状況判断のもと、消防庁の対応方針を決定していきます。そのため、NTT回線が途絶した場合でも、消防防災無線を含むあらゆる通信手段を用い

て被災都道府県・市町村や消防本部から情報を収集するとともに、直ちに官邸へ人員を派遣し他省庁とも連携しながら災害状況の把握に努めます。さらに、消防庁ヘリ等の映像情報のほか、被災地へ職員を派遣して直接被害状況等の実態把握を行います。こうして得た各種情報をもとに、緊急消防援助隊の出動要請・指示及びオペレーションをはじめとする、災害応急対策を進めています（[図2]参照）。

[図2]



1 訓練の目的

首都直下地震が発生した場合、最も懸念されるのは、交通機関の運行停止に伴い、消防庁に参集できる職員が圧倒的に不足することです。

本訓練では休日の夜間の発災を想定し、職員が参集に時間を要する状況を作りました。その状況下で、徐々に参集してくる職員に対し、参謀班が中心となって役割分担を決定し、迅速・的確な初動対応を進めていくことを大きな目的としました。

また、班長は、災害対応が長期に渡ることを見据えて、班内の業務量を判断し、職員を交代させながら適宜休憩をとらせることが必要です。そのため、業務の引き継ぎを確実にすることも目的の一つとしました。

以上の目的に加え、これまでの訓練で課題とされていた「参謀班を中心とした各班の連携強化」、「災害対策本部内の重要情報の共有」といった目的を併せて訓練を行い、実災害における消防庁災害対策本部機能のさらなる充実強化を図りました。

2 訓練想定等

震源/規模 東京都23区
マグニチュード7.3/最大震度7
発災時刻 8月10日 21時45分
訓練時間 10時00分～15時00分（5時間）

3 訓練内容

消防庁図上訓練は、プレイヤーとコントローラーに分かれて行い、コントローラー側が都道府県、消防本部、官邸、報道機関などの関係者役になってプレイヤーに状況付与し、プレイヤーは次々と発生・変化する事態に対応するロールプレイング方式で実施しています。

なお、実災害に近い訓練にするため、職員に事前に訓練シナリオを知らせていません。

前述したとおり、今回は休日の夜間に東京都23区を震源とする最大震度7の大規模な地震が発生したという想定で被害の状況（大規模住宅火災、建物倒壊による被害、電車の脱線、毒劇物漏洩等）や官邸からの要求、報道機関等からの問い合わせといった実災害に即した状況がプレイヤーに付与されました。プレイヤーは付与された情報をもとに活動し、状況に応じて以下の内容について対応を行いました。

- (1) N T T回線が途絶した場合を想定し、消防防災無線をはじめとする各種通信手段による都道府県、消防機関からの被害状況等の収集・把握
- (2) 限られた情報のもとでの緊急消防援助隊出動の判断、応援部隊及び派遣先の決定、応援側・受援側の都道府県、消防機関及び関係省庁との連絡調整
- (3) 被害状況や緊急消防援助隊の派遣状況について、官邸への迅速な情報提供、被害報の作成及び消防庁HPへの掲載等による被害状況の迅速な発表
- (4) 石油コンビナート被害等に係る都道府県、関係機関からの情報収集
- (5) 消防庁から被災地に派遣する職員の決定

4 実施結果

迅速・的確な初動対応については、参謀班の指示により、自らが所属する班以外で活動することになった職

員も的確に対応していました。

もう一つの目的である、災害対応の長期化を見据え、職員に適宜休憩をとらせることについては、多くの班では実施され、それに伴う引き継ぎも確実に行われました。しかし業務量が多い一部の班においては実施されず、課題を残す結果となりました。

また、これまでの訓練で課題とされてきた官邸への迅速な情報提供については、求められた時間内に情報提供できていたことは評価されますが、状況に応じてさらに細かな情報を官邸に提供する努力が求められます。

もう一つの課題とされてきた災害対策本部各班での情報共有については、各班間での情報共有が不十分であったために、被害状況等の把握や、緊急消防援助隊の活動状況の把握に効率性を欠く場面が見られ、課題を残す結果となりました。今後は、参謀班を中心に全班が一体となり、効率的に連動した活動が行えるよう、Fシフトの各班長を集めた班長会議を適宜に開催するなど、より積極的に情報共有を図ることが必要と考えます。

5 訓練を終えて

今後は、訓練での課題を整理し、各班に周知徹底した上で、課題解決に向けて次回以降の訓練でさらに検証していくこととなります。

応急対策室では、職員のさらなる災害対応能力向上と各班の業務の連携強化のために図上訓練を実施し、災害発生時の対応に万全を期することとします。



参謀班による被害状況の把握、方針の決定状況

問い合わせ先

消防庁国民保護・防災部防災課 応急対策室 小松
TEL: 03-5253-7527（直通）